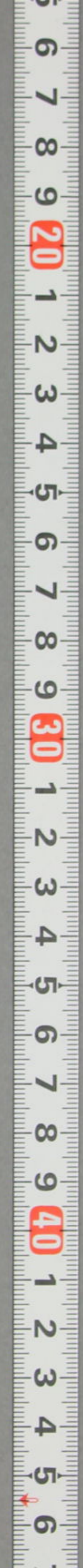


和漢文操

辨類 頌類
辨類 頌類

五

5
4710
5



のされしものもさねなをけりしも明なればせしむる
 幸もまもるしきしきへの筆をさしけりしむる
 七對の作は。からむの浦のまもる人をもつて
 りあはれしもの一葉をさしけりしむる
 けりしもの一葉をさしけりしむる
 下をさしけりしむる
 そのまもるしきしきへの筆をさしけりしむる
 桐のまもるしきしきへの筆をさしけりしむる
 とけりしもの一葉をさしけりしむる
 婦まもるしきしきへの筆をさしけりしむる

様も馬もはるるれりしむる
 尊のまもるしきしきへの筆をさしけりしむる
 けりしもの一葉をさしけりしむる
 まもるしきしきへの筆をさしけりしむる

○註曰●怨歌行新製。齊統素。皎素如。霜雪。●王建詩。輕
 羅。扇。流螢。○秋扇。詩歌。數多。アリ。奉。止。及。ハス
 ▲鞍馬山神。各。川。上。行。ト。緋。ト。各。所。ナリ。淨。中。毛。神。谷。紙。ト。アリ
 ▲夏。川。以。下。ノ。四。人。ハ。中。古。ニ。浮。世。繪。ノ。各。人。ナリ。 ▲清。少。納。言。カ。枕
 子。席。ニ。扇。骨。ノ。珍。キ。ヲ。參。言。ト。ス。け。し。扇。の。う。み。あ。り。け。り
 の。う。み。と。り。 ▲高。僧。傳。ニ。法。顯。ノ。菰。ノ。天。竺。ニ。渡。リ。テ。見。テ
 白。繪。扇。ヲ。不。覺。涙。下。ス。或。抄。ハ。中。啓。ノ。詔。アリ。後。勘。ス。レ

大塚

○百人二そ、善くそ、なましくきり、なみのまぢもく、小天の
かく山、中庸、道世者不可須臾離、云、拵、二世、其、八、之、前
ニ不忘、ニ字ヲ必テ、全篇ノ趣向ト成セルリ、又、ハ、不離、ニ、字
ヲ、假テ、礼、ノ、一字ヲ、繫キ、キタル、章段ノ起結ハ、常法ニシテ、此等ヲ
断續ノ絶妙ト稱ス、△昼語、背面、美人ノ圖アリ、蘇子
蕭人行、モ、此類アリ、△徐氏ノ文、貞ハ、前ニ出タリ、△可、め、お、る、い
か、め、よ、も、の、み、此、語、アリ、六月、廿、六、日、寛、文、三、年、の、事、と、傳、は、れ
い、そ、く、ち、り、し、之、リ、 ●長恨、奇、此、尊、卑、瓦、冷、霜、花、重、云、
●崑山、雪、夜、詩、一、炬、燄、火、之、石、盃、酒、●盧仝、茶、歌、八、奉、ニ、及
八、七、重、上、八、奉、見、ノ、寓言ナリ、△此、九、竹、十、折、帝、の、ま、さ、さ、か、り
△此、か、の、本、も、も、け、れ、ハ、空、し、と、ふ、と、あり、△禪、録、臘、月
扇、子、ト、ハ、無、用、ノ、物、喻、ナリ、 ○定、家、の、奇、事、女、人、と

中、の、も、浦、地、文、を、ま、さ、し、を、く、や、も、し、の、か、ん、こ、
△論語、礼、ト、云、礼、ト、云、玉、帛、云、字、哉、 ○古、と、集、も、ま、さ、し、
く、り、り、や、み、り、や、れ、し、の、ま、さ、し、と、あ、る、に、●詩、經、
棠、棣、皆、令、在、京、見、身、急、難、云、皆、令、八、鶴、鶴、ナリ、ト、ス、拵、ニ
此、一、對、ハ、前、後、ニ、五、倫、ノ、結、十、カ、ラ、眉、目、ニ、推、有、炎、ハ、更、ニ、テ、蓬、萊、
ニ、鶴、鎮、ノ、離、綿、ヲ、對、セ、ル、文、六、字、對、ノ、絶、妙、ト、稱、ス、△書、武、成、
既、馬、于、華、山、之、陽、放、牛、于、森、林、之、野、○東、ノ、了、の、奇、ハ
之、前、ニ、出、タ、リ、 △論語、林、放、向、礼、之、本、子、曰、礼、云、其、本、也、
寧、儉、云、
○傳、云、け、誓、ト、例、の、辨、利、と、之、の、ま、さ、し、と、傳、は、れ、ま、さ、し、此、次、中
と、く、そ、う、て、家、の、用、と、は、く、そ、ん、と、あ、る、と、傳、は、れ、
字、と、あ、ら、む、ま、さ、し、を、し、他、篇、の、文、辭、ハ、唐、土、の、人、と、お、も

しつうてかゝる言々の取柄といふことより社名など
その次第の土地と稱せらるるやあつて不意のこゝろと
して四葉の誓詞とある。新撰の法もこれ
よりく起承の法もこれにある。

固、琴貝 並序

僧馬泉

むしり我の麻と和訓をいふはあつて凡
孤れをまゝに固^{ウチカ}に解さず和訓をいふはあつて
まゝかゝらうと能^{ウチカ}の書はよる固のこゝろに
まゝなり洋とあつて此は歌も解もあつて
たつてまゝと音訓のまゝといふはあつて

固、琴貝も孔明の羽扇もあつて固くすめられ
も二品の名ありとある。一はこれのわらわら
おとす。かく固くあつて鈍くあつて
おとす。おとす。おとす。

其、琴貝

礼云、樂云、
時鳥、又、暉
信玄、銀甲、
母乃、追、蚊、
團、離、名、前、
拂、塵、隱、ル、
無、常、崇、佛、
郊、花、明、曙、
招、凡、讀、文、
胡、馬、盃、鳳、
有、意、怨、君、

若化^レ寫^ト去^ル

駕言^セ遊^シ雲^ニ

○註曰論語^ニ禮樂^ノ三百^ハ前^ニ出^{タリ}

▲軍史^ニ甲斐^ノ信玄^ノ

床^ルニ腰^ヲ掛^テ軍^配ヲ^叙セル^國八^信州^ノ中^嶋ニ^テ謙^信ト^ノ

軍^{ナリ}△兒^玉堂^ハ南^東ノ^武士^{ナリ}團^ヲ以^テ致^トセリ ●文選

詩^ニ盈^テ作^テ秦^王好^ム事^向煙^霧良^註言^ハ盈^テ於^テ扇^上以^テ扇^之

之^ヲ書^モ布^鳳也^云列^仙傳^ニ秦^穆公^ノ女^{ナリ}ト ▲和泉^ノ宗^尊寺

建立^ノ時^ニ行^基善^薩ヲ^通師^ヲ本^尊ヲ^團信^州上^ニ堂^置

ヲ^復アリ ●恋^ニ北^山石^トハ^班女^カ怨^歌行^ヲ云^一前^ニ出^{タリ}

撰^スニ^世一^對八^聯句^ニ底^区ノ^古法^{アリ}テ^無ト^有ヲ^對ト^常ト^戀

ヲ^對ス^意無^常ト^和歌^ノ續^キニ^テ倭^文ニ^字對^ノ絶^妙ト^稱

一 ●詩^經邶^風駕^言出^遊云^云

○倭^ノ心^ヲ移^ルト^直名^ノ和^訓ナ^リ一字^ト倭^文ノ^語脈^ト

夫^レヲ^他符^ト叶^韻ノ^體ト^シ一^レ比^レル^序ト^音訓^ノ

所^由ト^或ト^團ノ^類ト^言ト^多ク^或ト^團ノ^類ト

訓^トト^多ク^或ト^團ノ^類ト^言ト^多ク^或ト^團ノ^類ト

字^對ナ^リト^然レ^ト詠^文ノ^用アリ^ト今^ノレ^ハ移^ルト^リ

倭^文ト^多ク^一レ^作存^ト笑^ノ山^中ト^多ク^一レ^作存^ト

赤^花坊^ト傳^ト一^レ柳^翠世^ノ二^子ト^多ク^一レ^作存^ト

入^事ト^多ク^一レ^作存^ト信^州ト^我真^言ノ^字匠^也

神贊

長江集

世界ノ好ノ外ニシテあな心ニ我ハシキあり

○評云けびと例の被控よりしてははるるよまたかたむ
む一室の稱するふと食者の袖とみんくんと袖を此
食とあらわすといふ佛師の万葉より老若の二に別れし
はるるおちるとしては此の微中より二をせはるるは
とせよといふ并女夫と虚空を非と仰の起結
観音大士と鳥高の廣と文中の字をさしては
あつた遺教の知足といふて合福の二子と結
近くと一編の親疎といふ遠くともやめを訓い
作者と長野よりして越の新撰といふ此柱とては獅子
の親よりして鑑きの西葉より二兩人の所より標字

卷七の賛

蓮二云

五子曰

繫而不合

蓮二云

にあはれは非といふ

○評云けびと例の被控よりしてははるるよまたかたむ
あつたけびと論議し五子の詞あり係法よく不_い合の
とほらして不_い合の二よりまぢりてはるるといふ
といふありはるるといふは是よりして儂の大ま回
その地にお茶のえをいふ
ほのとてはるるありはるる

之類圖類

東華坊

世傳醋吸之圖者塩梅儒教老之道而
酸共耳其苦共所謂人之好不好與不然
厚有也思謂物教奇事而飽不有耳兮不
有苦兮寔麼月夜之末飯則為鮮其飯而
嘗少所酸了也增而好細豆人者嘗其為
體臭尔哉孰厚謂道之是矣孰厚謂道之
非矣攻乎異端斯害也已抑謂太極之道者
從本一即之道也其公千車万馬之歧而或

者打鳴念佛之鈕宛或者橫倒參禪之棒
宛此耶尔者詭虛兮彼耶尔者詭實兮儒
家結五常之垣則佛門張五戒之綱而互
斷性來之道則老子者說手振千貫而割
牛兮折衡兮為家天地而鏡麼不卸特擴
我好之道與所率哉謂佛諾之道者級合
之家之意味而塩梅和漢之風雅了則人法
者從孔子之訛諫居心法者傳秋子之虛靈
些又法者效在子之形容歷然則非儒兮
非佛兮不構老在揚墨之一城兮假令謂

釈迦孔子之御経共知言語之用與無用
了則其虚磨合點了其實磨合點了何条
可美暗許之黒豆泉矣從言而嗜人柄磨
欲毀而遊者俳諧之詠矣也乍去乘人之
味線而遊芳野山之花了。靡難波浦之
以而頽葭了頽了于月于雪也則立
合點人形之憂名而成果學文之日備也矣
二子能察我言之虚妄而學而思了思而
学了知今日之用與無用則元賢悖豐干
之饒舌而看破獅子庵之遺稿矣爾有則

所謂之人行則必有我師及合點文殊
智惠乘此圖者頽儒佛老之内證而可謂
俳諧一宗之拜物矣夫

○註曰醋吸三聖母多手圖ナリ近ク繪本抄ニ註解アリ
△俳諧拾芥何ソモ月夜茶汁末湯ト云ルハ米飯ナリト
多ハ米飯ト平話ニ讀レ△異端ハ論語ノ全文ナリト
スニ此語ハ政字ヲ治字ノ論アト孔子ノ意ヲ察スハ道ハ家ハ
ノ建流アリテ佛老モ揚墨モ一理アルハ譬言ト我家ノ建立テ
自ラ答言テ他ヲ毀ル正字ニ怒リテ責ハカラストソ右ハ先後抄
ノ取意ナリ△五常五戒ハ儒仏ノ制法ナリ細奉スルニ及
ハス△老子割ヤ折衝法天地家モ其理取意ナリト抄スル

手振千貫下一錢ノ其手モ持タス大商ノ平話十六老子ノ五千余言ヲ縮テ四字ニ説着スト云ヘケン此等ヲ奪胎トモ換骨トモ文ニ誣諧ノ絶妙ト称スシ △家語子曰諫者有五美中略五諷諫唯度至而行之吾徒諷諫手トアリ史記滑稽晉琴賈常以諷笑諷諫云△公孫心本虛灵氏禪語虛灵不時氏總心ノ實鮮ナキ夏之△在子形容ノ子ハ全部ノ趣意ナカラニ頼ニ無情ノ形ラ字ニ危下ニ有情ノ客ヲ尽セリ總テ俳諧ノ鼓舞ナリト撰ルニ二段ハ三章ニ要ノ法アリテ俳諧一道ノ内證ト云フ諷諫ハ本言リ滑稽旨本懷ニシテ虚灵ハ言語ノ優游ヲ云ク形容ハ文章ノ的當ヲ云ルニ受ラセテ替ノ骨節ニシテ俳句ノ虚妄ハ受テスナリ

△禪錄暗黑皇老和高上均ノ明又ト云フ單詞ナリ △味線ハ

△線ナリハムノ通テ音語ト下俗習ニ徒テ味字ヲ加フテ和詞ニ知訓アリ多ク芳野山ト云ク向山ト云テ線手之〇新千載ト云フ人ノ知ルルヲ不知ルルト云フ備ノ事ト云フ難波ニ善言ノ歌ハ數多クナリ△学文ノ日備ハ白馬ノ詞ニ文章訓ニキル當時ノ子者進ノ力尽ノ表ト知ルルト云フ是レ也ト云フ一説ト云フ是レ也ト云フ言ハ其切了ノ下法ト云フ向ルテ子ト云フ自己ノ接用アリト云フ是レ也ト云フ子之の日備ト云フ是レ也ト云フ按スルニ此二段ハ線ノ手ヨリ言野山ト云テ難波浦ニ向テ對シ言語ノ善惡ニ語ヲ寄スルハ公野人形ノ誣諧ナル学文ノ日備ノ的當ナル也等ハ例ノ斷續ナカラズニ裁斷ノ絶妙ト云フ也ト云フ論語ノ学而不思則固思而不学則殆也▲高僧傳ニ寒山拾得ハ文殊善賢ノ化身ナリト豐干和尚ノ教主ニ依テ向丘嶺八國情寺ニ

の帝上様とむらひつる文の新撰とらんり金也作者と
藝の唐詩上巻と下巻と今其氏の人あり

○頌類

枚子頌

伊東恕

世に衣食行のこの中に食と天とて才下とる
い歌也子子のい千余巻も毛燻西施と十二お
吟歌をるわくあちわけ不我おのけいちいも
天の厚格のひりて婦はかけむらめあくお帯
一枚子のもは中よりあまの心をも感あつる天孫

七代も地非み代もととやあふ下とまてく人の代あ
あちさくうりて舞踏のゆかぬの流く新巻の
わくしあわやうて舞入るは始りうもはあちとて
いふ時あしはれもも名のわりたれいそし女陰の
とよしやあつて久我殿のながりおまもあれく柄枚
枚子も此書もむいし一はしし能遊のは用と論を
おむしもまらおも連音此書もまらと久しも長あ知
もる味増塔の手話あまあし一はししやあまのうつお
とふり葉たわら。枚のあまのうつおみまあし殿
の抱あましり若御綿子の風流うらわをわら中

地ねしやれより妙きものばさすちるはれけおのそ
世の卯此ら地とさしお仲屋に説けし。み百却のる惟
七歌書し作れり。六十帖の初おし後とさす。さの佛
らうちと好くさしおけおのそよりうらうらう

○註曰△掃田録思案文字在於上所謂馬上厠上松
上也。△金華壁賦馬上撰樂賦詩云。●陸放翁夜雨
詩支松迷森聽始奇。○新古今信長あり。陸北
ありきけしとありおふおのそと地うと。▲軍史信長云
長雪隠ノ向ニ蘭丸ヲ太刀ヲ持テカラ割鞘ノ數ラシ美譽人
スル類ナリ。△無量壽經具足五劫思惟云は源氏六十帖
ノ趣向ハ湖水觀相字ニ上郡始終ヲ作リトフ

○作はは辨と娘毒のふけうくみまの地とれくとも
さうやしとらに香徳の誣詰り仲屋の思惟とあり
源氏の親おし合せしるはうと屋中くささとありて
これ辨と名の優遊とありと一も傳と文鑑ありて
舊内対ぬのふ心ありと湖南の松中よはの遺跡あり

愛管辨

苗草院

あまおれと母と其名ののあんこむむ時と書る
かたわらしとわにむしおうつる帝の月とぬげん
おとりのむしとる時とさうとくちちとく捕と

人のうらむん怪むしと愛のほろけありし我ら。漢の
父さんさんうらむん怪むしと愛のほろけありし我ら。漢の
作らむん怪むしと愛のほろけありし我ら。漢の

○註曰▲松双扉よりうらむん怪むしと愛のほろけありし我ら。漢の
余婦のうらむん怪むしと愛のほろけありし我ら。漢の
乗車云▲史記楚頂羽歌力抜山今氣蓋西今時正
利今雖不逝今うらむん怪むしと愛のほろけありし我ら。漢の
ノ地ナリ▲唐玄宗ノ復前ニ出タリ▲國大ノ復ハ太平記ニアリ
相摸入道ノ遊ナリ●長恨歌警破霓裳羽衣曲云
▲晋史王羲之好鵝為山陰道士采道徑往換鵝携歸云
▲東鑑ニ云々録作描被之贈物西行上人上我領之於行也

幽放遊望子兒▲編年通論之庵居士伴天昭在隱居
深山賣竹佛離給朝久食▲廿条坐中焦尾琴今
毛仲景カ古猿万年ノ三琴今毛總テ桐以テ作リトウ▲王美之
邊作一日與他君哉ト云リ ▲日守トハ管ノ声ニ月星日守
ト余韻ノ長キヲ三光ノ引導トテ世秘藏ス古ナリ▲梅スルニ
兮字ハ和漢ノ助語辭ニ分明ナラヌ先師ノ大和詞ニイウ
カノ釈文ヨリ始テ和訓ノ用上成リ壁ニハ永用ノ詞鏡ニハ
モハレモ通ニ難久風ハト増テ書法ナシ然レハ兮字ノ和訓
ヲ得テ大和ノ當用ヲ称スキナリ▲詩文ニ乱管ニ在管ニ老管
トハ管ノ管ナリ▲益譜ニ金永身ト管ノ一名ナリ○古ノ管ノ
あさみゆり喜ぶるるの初めさるる人ありしを松双扉
さるるの初めさるるの初めさるる人ありしを松双扉

とふしをたへてはしるべき所の爵とあつて補佐の心と
あつてもいふべき事あるべし。模の一字をきつて
依志の二字と後をいへば、ゆくと依志松と云ふ。
一戸葉舟のつとまをいふ事。

○註曰△文選客難東方朔曰如朝等所謂遊世於朝庭
之間者何也何也深山高岸之下也△異同集三盧生
耶野ノ松ノ支アリ也知所ナリ細拳ニ及ス △百石鳥
模尾^註其皮^註其皮^註辟^註濕^註圍^註其形^註避^註邪^註云陸佃曰
然別以^註辟^註瘴^註之事^註爲^註食^註惡^註夢^註之^註謂^註詭^註狀^註模^註スレ
節序紀源ニモモ模ノ論アト松ノ木口ニ書キ来テ昔野
ハ模ノ觀音モアリ護ニ瘴テ故家ヲ用レ△戸葉舟

○注云け辭と字記して孫は依志の二字とあり公私の二用
と云ふ事もなき物なり。後一人和の履字とゆふ事
なり。又倫の履海と云ふなり。一作者を紀元
堀田氏あり。濃南のは阜の位なり。那合下の四宮註
公卿の履カレる能階とあり。官内の履者いふ事也

○説類

木履説

藤之徑

中庭に木履のさか木履を履くは後に行者此らより神園
の灯を照らししむるれ牛にわたるの歴も履いよ人切の

觀音の御至の御流とてやまもしむの御りやえ

その御りやえ

○註曰△設行者ハ元亨親書ニ傳アリ木履ノ言又ハ別書ニ尋又
 △本朝軍史ニ平忠盛カ火懸ラ抱留スル言モ△牛若丸
 ノ千人中モ世ノ知ル所ニテ細奉ニ及ハス△梅檀香樹ハ仁延
 説ナリ木履ニ言セタル富言ナリ△雲ヨリ落スル久末仙人
 ナリ諸書ニ在リ細奉ニ及ハス △玉鉞トハ道ノ枕詞ニ擲テ
 盲人ノ一章ハ竊ク玉鉞ト枕ラ重テ金ト云イ馬鹿共ト云ハ
 ル文ノ新續ハ更ニシテハ等ヲ錯綜ノ絶妙ト稱スレ △晋史ニ
 謝天運好登山嘗着木履上山去前齒下山去
 後齒△晋史或人自詣阮孚見其蠟屐歎曰未知
 一生當着幾量屐 △五条以下ヨリ軒書ニテハ源氏ニ

夕鳥美ノ歌入り其書ニ見レト擲スニ錦ヤ路ハ有ク爲ニ目ヲ
 覆ヒテ常ニ水ヲ灌ク故ニ多ハ木履ヲ常ナリハ等ヲ諧語滑稽
 ト知レシ ○古今伊勢ノ書常ノ言ハ音ニあまら川ぬわも
 あらぬ物なれもせよのりりり物なれもあまら ○これそ
 ちまをけるくそんおれおるせのちまらちうらん
 △中陰經草木園土意皆成仙△法老經ノ電ヲ成仙ノ履ニ
 變成男子ノ言アリ細奉ニ及ハス

○譯云け文と今く説解とにく一物より換るう故す
 とこそ所古語と稱し漢ノ塵語ありんやあると
 伊勢ノ書常ノ言ハ今ノ書裏の次ナと云り物ノ衣糸
 の花とてうらとてに後笑の詭譎と云れや作花ハ伊勢
 白くして尾の輝下ノ嘉道とて或ハ市中の用と擲テ又

梓のり糸もきくもあらねんはれしきぬのねの糸向い
山川下りよの梓とまねきとまひの糸の後舞い
はきとねらりもつらとみくもまね

○註曰見繫辭黃帝下斷木為梓掘地為向は梓
世後瑞ニ見舞ハ富言ニテ黃帝始ラ云ハニヤ△ニ梓
後舞ハ行勢古記ニテ前ニ出タリ ●東坡句詩ニ堅壁
混泥也○後成テ亦亦ヤとこのつらりののり
りらりやとらんあおあひなり △論語ニ回世如愚
●班女カ扇歌ハ前ニ出タリ△澤中明る美珠ぬかりぬ
とまるとありしとあり △言志記ニ山川下りともつ
ねとまるとありしとありしとありしとありしとありし

○傳云は説と全く詠諧して黄帝のころより
さぬのとりのりもきくもあらねんはれしきぬのねの糸向い
もくもあらねんはれしきぬのねの糸向い
まろくしはれしきぬのねの糸向い
て詳しはれしきぬのねの糸向い
作者を伊弉の再海名し作ると依と部申の古老より
風雅入かしとまねきとまひの糸の

眠五説

東菴坊

けふよこ代の風雅ありしも和と眠下とひし又と
眠語しつ小娘語を我為しまねきとまひの糸の

らねるうらうら子眠車と茶坊よあひて今のみまを
 ねる色せしむ寝心の風雅と眠る一まの五山あり
 夫もねむり地もねむり人もねむり月もよねむるを
 けり能登よねむるもよせされ天地人し眠る付を
 天地人のあられもよねむるもよのり能登と月ひる
 のつひも次し月もよ眠る付を月もよのりも
 こそねむり人の風雅とよきんよのりもよのり
 一よのりもよねむるもよのりもよのりもよのりも
 こそよのりもよのりもよのりもよのりもよのりも
 こそよのりもよのりもよのりもよのりもよのりも
 こそよのりもよのりもよのりもよのりもよのりも

小

つひもけふのつひと眠りやあら茶のつひのつひも
 こそよのりもよのりもよのりもよのりもよのりも
 こそよのりもよのりもよのりもよのりもよのりも

○浮云け詠を虚勢あり一解五山のつひと眠る例のつひ
 く例のつひと眠る例のつひと眠る例のつひと眠る
 越のつひと眠る例のつひと眠る例のつひと眠る
 月もよのりもよのりもよのりもよのりもよのりも
 あら茶のつひと眠る例のつひと眠る例のつひと眠る
 こそよのりもよのりもよのりもよのりもよのりも

搔録説

陳素六

むうかぬらね頼朝と茶挽米おのりも

